

今年は東京国体の年！

>> パターンナンバー

第4回 なぎなた競技を見に行こう！【試合競技編】

先月は、「演技競技」をご紹介しましたが、今月は「試合競技」をご紹介します！

試合競技

試合競技は団体戦（先鋒、中堅、大将）で行います。

2人の試合者が、定められた部位（面部・小手部・胸部・すね部・咽喉（いんこう）部）を確実に早く打突して勝負を競います。

敏速な動きの中から打突の機会を見出し、全力をあげて技を競い合います。
相手に対して、よい間合からタイミングよく技を出すことが勝利に結びつきます。

剣道と似てる?!

そう、なぎなたの防具は剣道と似ています。ただし、剣道にはない「すねあて」があったり、のどの部分の前垂れも剣道よりは短かったりなどの違いがあります。

3本勝負が原則で、試合時間内に有効打突を2本先取した方が勝ち。
ただし、所定の本数に達しない時は、1本先取した方を勝ちとします。

試合時間は3分で、勝敗が決しない場合は2分の延長戦を1回行います。それでも決まらないときは、3名の審判員による判定となります。

また、団体戦の勝負は、勝者数により決定します。

メーン!

試合中、審判員は両手に赤白の審判旗を持ち、じっと選手を見つめます。打突の瞬間…、「メーン！」

という掛け声が響きわたります。さて、審判員の判定は？

審判員が有効と認めるときは、その組の色の旗を斜め上にあげ、認めないときは両方の旗を前下で振ります。

2名以上の審判員が有効と認めると1本になります。審判員の判定に対して、異議の申し立てはできません。

なぎなたガイドブック

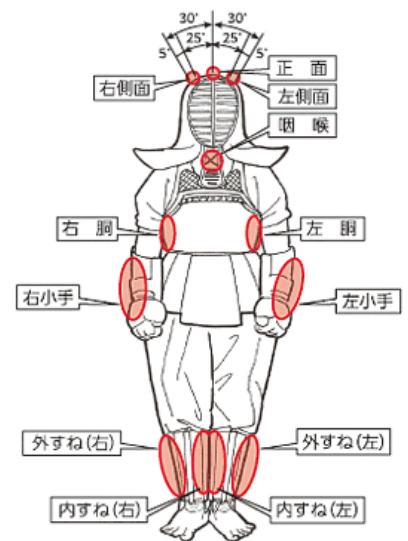
各地区総合支所や区役所7階の国体推進担当窓口で、「なぎなたガイドブック」をお配りしています。また、競技会場受付でも配布しますので、ぜひガイドブック片手に、なぎなた競技を観戦してくださいね。

監修：第68回国民体育大会港区実行委員会 TEL：03(3578)2746

▲このページのトップへ

| サイトマップ | みなさんの声 | Kissポート財団について | 情報誌「Kissポート」について | 品質・環境への取り組み | 個人情報保護について[PDF] |

試合競技時の防具と打突部位



反則

片足の全部が場外に出た時・倒れて体の一部が場外に出た時・なぎなたの柄部で相手の側面を打つなどが反則行為です。
このほか、試合規定に定められた反則を1試合中に2回重ねると相手に1本を与えます。

